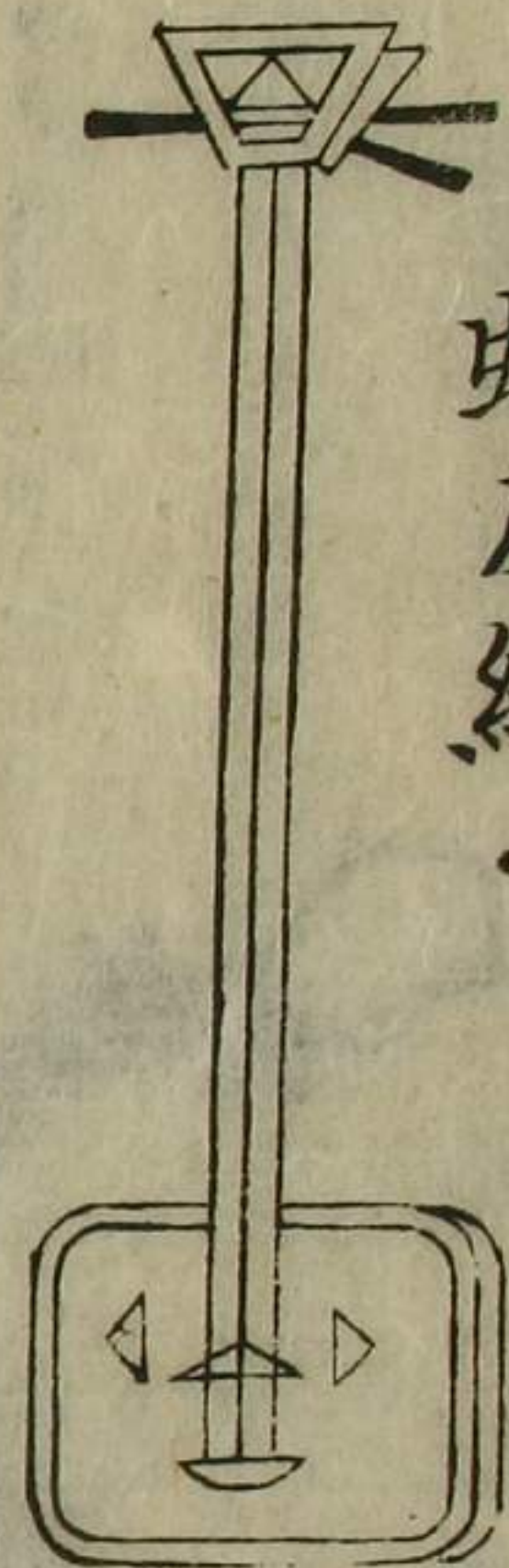


南
瓢
記

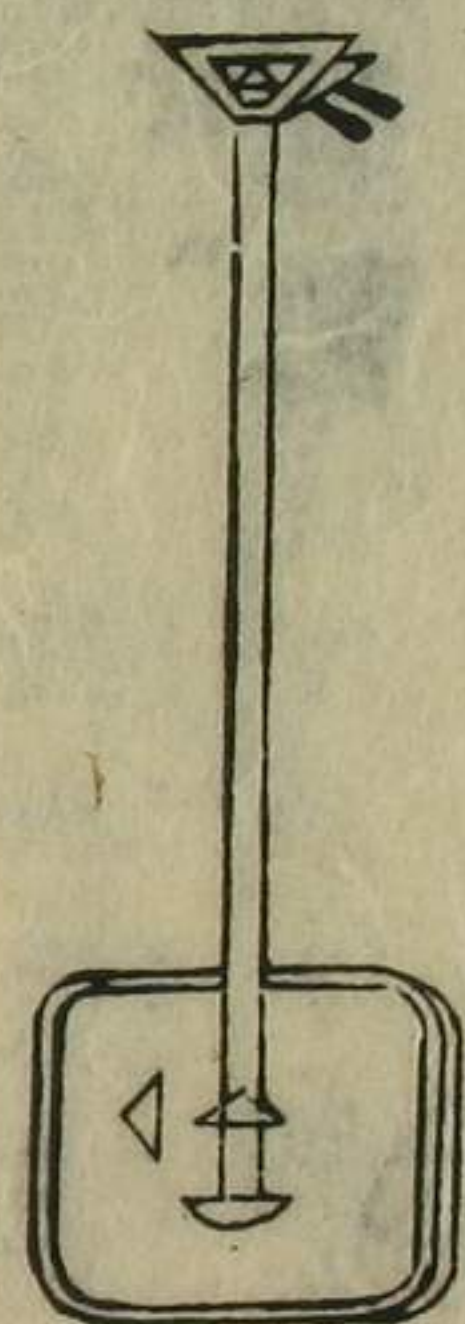
ル 7
3062
44



蛇皮線



鼓弓 糸二すぢ



撥

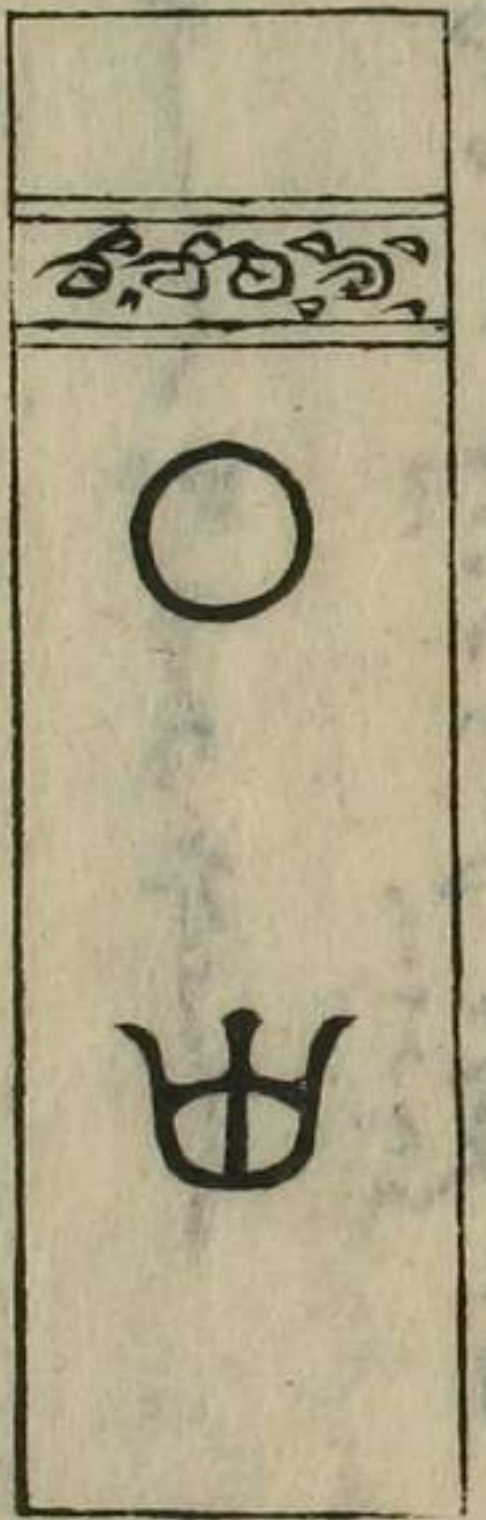


太鼓



之味線 鼓弓 撥ふ
凡引多し

モヨウイロアリ



詩とらたひ 藤よふ 撥ふまうこの内とよそふ
せら見交へ 通りまういあうらうとをなまよあうらう

本竹

樽

樽子とらうらふにみまもさすお本竹の

楠

右より目どろ木おぐ

樟

古本より多量に切取り日用にせよ新本とある所
何れの家のもろ木を香ひおぐ

松

大松の帆柱よきより木骨有のふはひあり

松

さし〜くかきりたす

松

大木より葉のふ人葉食より日へ食より人男女とも函の
くろ〜の松葉と食するはあり葉のふ中の松根又の
かべのかきりよもきりたすは本〜の介あり

槐檜木

は介大木のけてかきりたす

椰子油

椰子の葉ごとあつ〜して百ほ〜と朽とたす
カチヤ〜のあては中の松根かべのかきりよも用ひ
路架と目ど〜〜あり葉の食用とふ〜皮の
細よよりきい葉の穀の新のかきりよたす〜と鉄く
ぎの〜〜あ〜切〜りて油とせ〜〜だ〜〜あり〜あ
ぶ〜葉の油よもきりたすは用ひ〜の樹あり

右の介法本板多し出除〜〜〜と記〜

竹

寸法

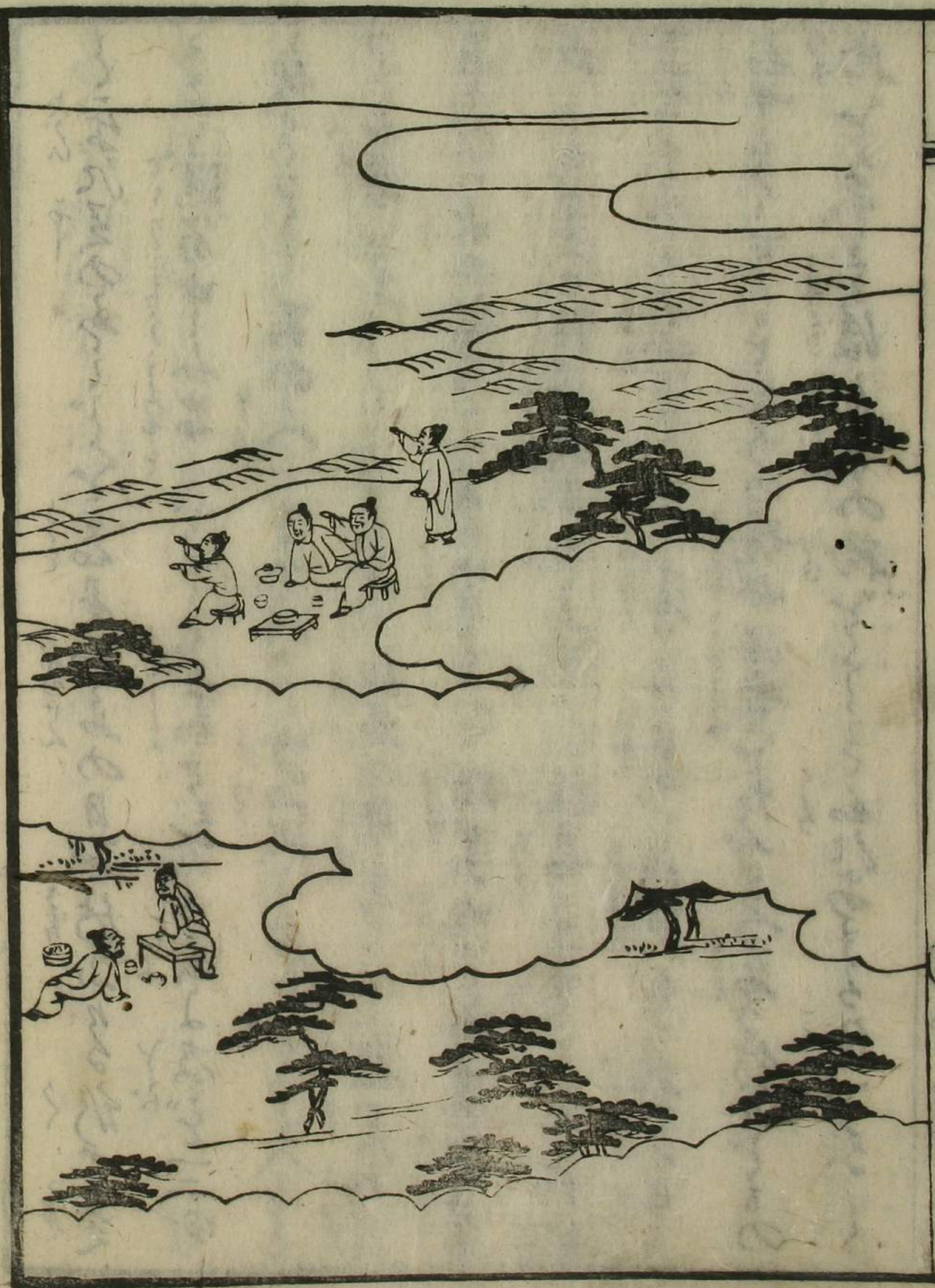
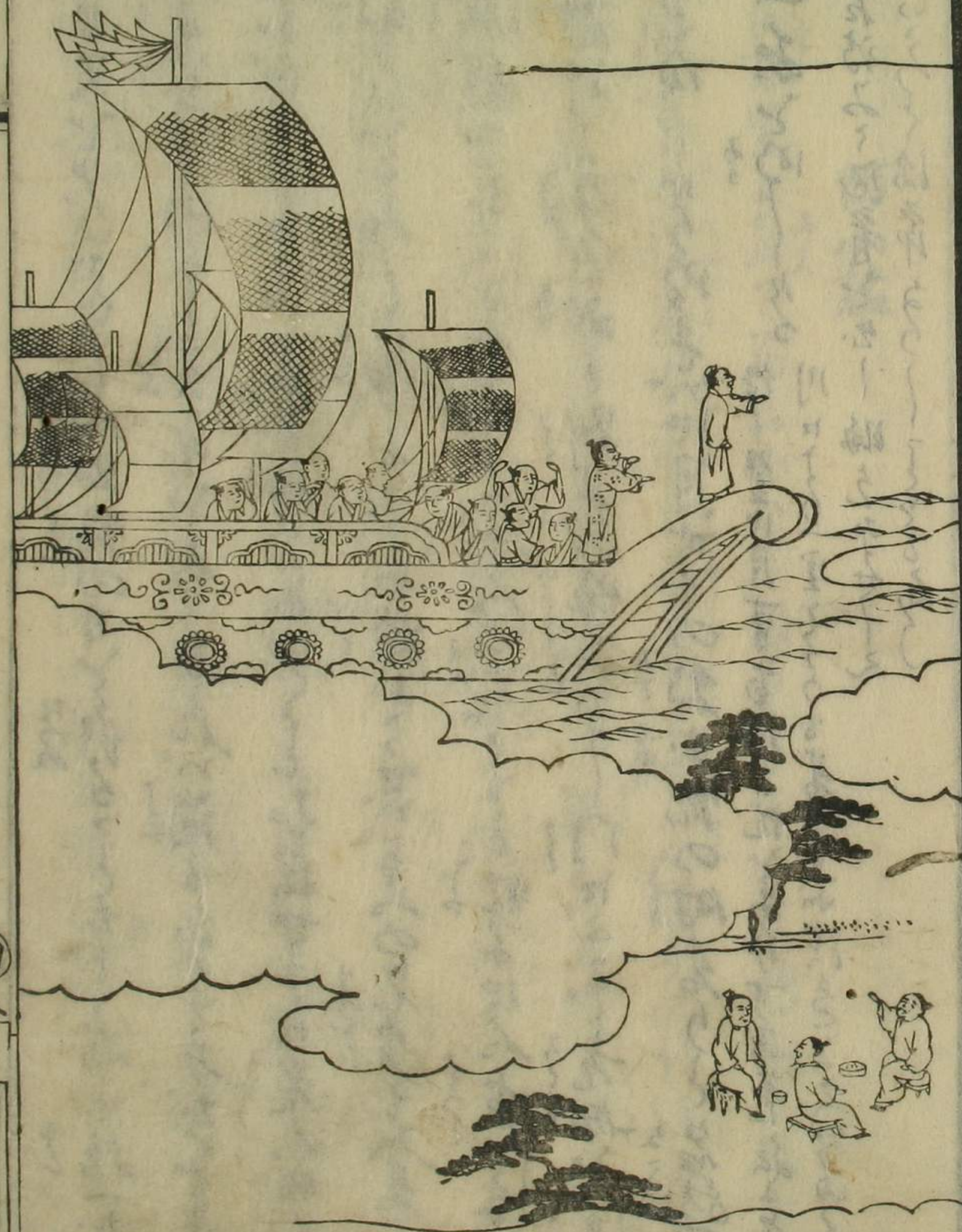
- 一 本長八寸五分
- 一 本長九寸
- 一 本長一尺一寸七分

とかりしも持至らばぐり代地よくお呆し取同ぐみ
納^{おさま}りしもやとふしきこのゆにかりひりりばき舞^{なぐ}を前
用^{もち}の方^{ほう}の清朝^{せいせう}の左南^{さなん}までお呆りしに是^{これ}もけあふて官
人^{ひと}不^ふさしきさかのかみけ^{たけ}寶^{たう}とかりしあり後^{あと}よ文章^{ぶんしょう}の
徳^{とく}四海^{しがい}を照^{てう}し外^{がい}國^{こく}までも通用^{つうよう}ふとと^{あつ}強^{かう}有^{ゆう}ことと

晦乞

星^{せい}うつり月^{つき}かぎり光^{こう}陰^{いん}石^{せき}火^かのたとのでく代^{しろ}は^はありし
と^とあま^{あま}し^しの月^{つき}日^ひは^は月^{つき}八^{はち}日^{にち}の佛^{ぶつ}生^{せい}日^{にち}とて玉^{たま}中^{ちゆう}の守^{まも}

くよそ弁^{べん}の衣^いの金^{かね}式^{しき}ありに月^{つき}下^げ旬^{じゆん}よとあつしとそあ
ふ王^{おう}より旅^{りょ}宿^{しゆく}よと新^{しん}の十^{じゆ}人のあふ妙^{めう}也^や珠^{しゆ}夜^やを
と^とあ^あし^しよとそ^そき^きくよと^とあ^あな^なあし^し廿^{にじふ}日^{にち}未^み明^{めい}より殿^{てん}中^{ちゆう}へ
出^でる^る前^{ぜん}に^にう^うと^と次^じ國^{こく}王^{おう}出^で沛^{はい}あつし通^{つう}辭^じとあて作^{あつ}
渡^{わたり}き^きう^うの^の漂^{ひら}着^{ちやく}る^る朱^{しゆ}水^{すい}水^{すい}風^{ふう}つり^{つり}内^{ない}航^{かう}の時^{とき}帝^{てい}を^を新^{しん}代^{だい}行^{かう}よ
了^{りやう}し^し南^{なん}風^{ふう}よあり船^{せん}の通^{つう}海^{かい}も月^{つき}中^{ちゆう}あつし^し日^{にち}下^げ一^{いつ}通^{つう}
船^{せん}の用^{もち}者^{しや}と^とあ^あつ^つ送^{おく}り^り所^{しよ}け^け度^たお^おり^りと^と去^こに^に月^{つき}よ^よ西^{せい}
山^{さん}小^{せう}征^{せい}伐^{ばつ}よ^よ事^じ無^むく^くふ^ふ人^{ひと}と^と軍^{ぐん}被^ひ地^ちよ^よわ^わら^ら代^{だい}帝^{てい}と^と又^{また}
日^{にち}く^く軍^{ぐん}船^{せん}出^でる^るを^を中^{ちゆう}の^の人^{ひと}不^ふ足^{そく}よ^よと^とを^を日^{にち}下^げ



武代仁を誅くふ中安堵の旨とのべ今又今年の春復讐
とに付くせ下さるべしと時中迅速に成るる所を意
に任せ武代仁の王より廢皇弟の王別來たりしれが業
てみこしとて我詞を用ひすしとてとうりて武代せり
と信びりり初て王城をそと後の武代の時いゆにりる
御所新に年月の昔も王意為りて御所あり續て今
の武王代と納めありふふもこの終り来るしといひ
ふよれ合有るしとて武代弟の使者を遣はり武代の年定
代とたきくまへ王城をそと御所區々く武王より再

武代仁を誅くふ中安堵の旨とのべ今又今年の春復讐
とに付くせ下さるべしと時中迅速に成るる所を意
に任せ武代仁の王より廢皇弟の王別來たりしれが業
てみこしとて我詞を用ひすしとてとうりて武代せり
と信びりり初て王城をそと後の武代の時いゆにりる
御所新に年月の昔も王意為りて御所あり續て今
の武王代と納めありふふもこの終り来るしといひ
ふよれ合有るしとて武代弟の使者を遣はり武代の年定
代とたきくまへ王城をそと御所區々く武王より再

天文地理曆代帝王。九術算法。斤求兩法。多シノ
百家性。其外雜字。采珍種々集成ス

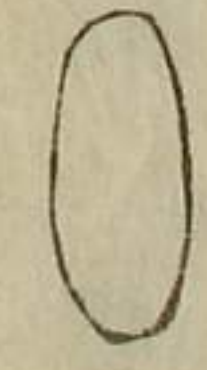
扇あふぎ

古書ふるしよ垂甲ちかあり

要め丸く甲骨
治如の本番あり

繪え山水

小糸こいと係かへ系けい之の人ひと家か



表あは細字こまじ三十三行さんじゅうさんじやう字數じすう五百余ごひやくあまり字

奥書おくしよ

元日げんじつ日ひ右書みぎしよ

翁おきな先生せんせい為な清柳きよやなぎ拜正はいせい

竹庄たけしや

せんもあまきと火の
二海子教多ありと一と託之

唐紙からし之の枚まい行ゆき美み之の大おほ字じ之の

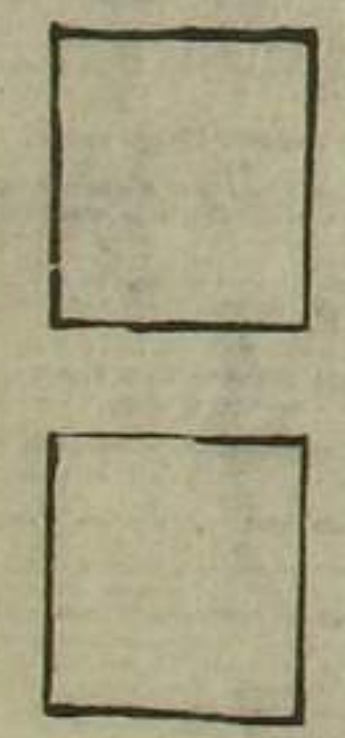
どうりつとや
藤家酒肆息徳之

太神宮 八幡宮 太明神

此方より下か
きし徳めし

景興五十六年 康安南國 年十三歳 名ふ

公こう孫そん之の見み事こと方かたなり



まろくともありむけふ人物阿蘭陀人の

可馬巷詞

船頭 かぶつん 黒坊 あしんどまのま坊

豚 ぶりと 羊 むら 鶏 かれぎ 大飯 おちあひ 米 あかみ

食事 めし 水 みづ 肴 べし 胡椒 ちり 砂糖 あまら 体 やま

茶碗 ちawan 箸 しほ 燗 あか 火 か 竹 たけ 頭 かぶ

髪毛 かみ 鼻 はな 爪 つめ 眉毛 まゆげ 眼 まなこ 渡守 わたし

行 ゆき

右可馬巷詞の右体たる事多しと云ふ少くむらり

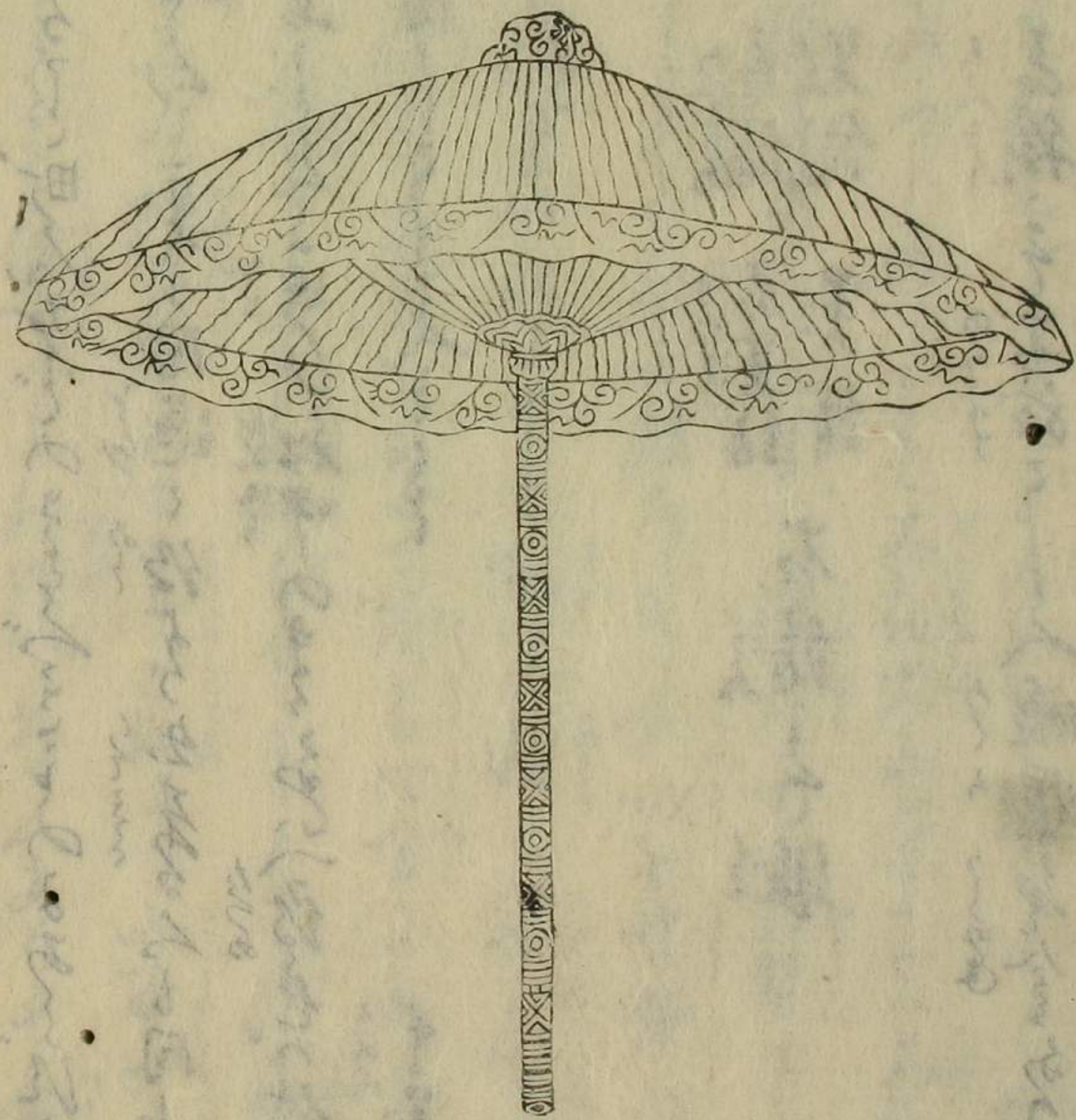
見附

王城の濠より見附の島山と申の島と申の砲頭より
見附の濠より見附の島山と申の島と申の砲頭より
見附の濠より見附の島山と申の島と申の砲頭より
見附の濠より見附の島山と申の島と申の砲頭より
見附の濠より見附の島山と申の島と申の砲頭より
見附の濠より見附の島山と申の島と申の砲頭より
見附の濠より見附の島山と申の島と申の砲頭より
見附の濠より見附の島山と申の島と申の砲頭より
見附の濠より見附の島山と申の島と申の砲頭より
見附の濠より見附の島山と申の島と申の砲頭より

但し徳島の商船は金下國五つを在之入船の時
五城よりも濠には五つを五城に引かあり

分血

十人の者始終船中より日を送り及見れば只浪高きよんゆら
双木の太本と城のからと城外の山より外目よりあふみの
かり諸本に船り集るるに我軍よきして習らるるくきき
とも島の中よりいふるや前後七十日たうらよ一疋もいふ
たうらよ可馬巻の所へ外より大余の言城者は何れやもいふ
を却て七月十六日十六日の中の中の着る者深近よりいふ



柄な

笠櫃の敷唐本より造らる

但し下駄はなし皆さる

月より皆あり
おぼろ皆あり

六月より七月まで日数七十日むらり船中より送るるを
 所、去六月中以て廣東商船は地へあり十七日出るは
 カボヲより日下漂流人帰帆のて安南国王よりたの
 まうをく越見よりすりれは廣東船のふれをよ
 合十人もまやせ入帆は帆とさる十七日船可馬基
 添をのりていそとをわとさる日廿一日廣東の川と着
 こをより官人案内して旅宿の方へよりり

海上通法元三百六十里斗

南飄記卷之四終

四十一

